

肝臓病による自覚症状

このような症状がある場合は要注意！でも実は、症状が無くても…

肝臓病を心配していても、病院で定期的に検査を受けられる方は少ないのではないのでしょうか？
今回は肝臓病が潜んでいる可能性のある自覚症状を挙げてみます。



厚生労働省IPより

① 皮膚や白目が黄色く・尿の色が濃くなる

この症状は黄疸(おうだん)といい、肝機能障害を反映することが多く、精密検査が必要です。ゆっくりと悪化した場合、毎日顔を合わせている家族は気付かず、久しぶりに会った人に黄疸を指摘されるケースもあります。

② 疲れやすい・だるい

肝臓病で最も多い症状です。他の病気で自覚することも多いため、肝臓病に特徴的とはいえませんが、食欲不振や吐き気などの胃腸の症状を伴う場合は、肝機能検査を受けることをお勧めします。

③ 熱がある

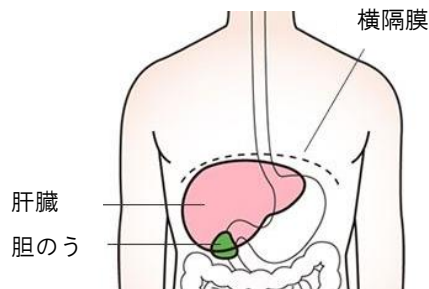
これも肝臓病に特徴的とはいえませんが、特にウイルス性の急性肝炎では発熱を伴うことが多くあります。

④ その他

少し意外かもしれませんが、皮膚のかゆみや発疹、こむら返り(手足がつる)、睡眠障害(眠れない)などが肝臓病により引き起こされていることがあります。近年、それぞれの症状に有効な治療薬も開発されてきています。

⑤ 自覚症状なし

肝臓は余力が大きく、多少ダメージを受けても症状を呈することが少ないため、「沈黙の臓器」とよばれます。例えば、C型肝炎ウイルスは我が国の慢性肝疾患(慢性肝炎、肝硬変、肝細胞癌)の約7割に関与していますが、肝炎ウイルスに感染している人のほとんどは自覚症状がありません。「ここまでの内容は何だったの?」と思われる方もいらっしゃるかもしれませんが、「症状が無いから大丈夫」と思いこまず、一度は肝炎検査を受けることをお勧めします。



<参考>

群馬大学医学部附属病院肝疾患センターホームページ <http://kanzo.dept.showa.gunma-u.ac.jp>

【内科診療部長 並川 昌司】

